



5



6



7



8



9



10



11



12

1_ 横転したバスから乗客を救助／2_ ドクターヘリによる救助／3_ 土砂に埋もれた車両を搬出／4_ 医療チームによる応急救護／5_ 無線通信を体験／6_ 外国人や怪我人など避難者の受付／7_ 住民同士が協力して TENT を設営／8_ 豪雨の威力を身をもって体験／9_ 中学生と高校生の防災士が、同時翻訳機を使って余震発生をアナウンス／10_ 保健師が同時翻訳機を使って外国人避難者の健康状態を聞き取り／11_ 要支援者が民生委員・児童委員と一緒に避難／12_ 福祉避難所で要支援者を受入



1



2



3



4

もし、災害が起きたら PICK UP 私たちはどう動く

8月30日⑩に、総合公園を主会場に、令和8年度愛媛県総合防災訓練が開催された。市内での開催は18年ぶりとなり、行政、消防、警察、自衛隊、医療・福祉関係者、民間事業者など総勢116機関、約6,000人が参加した。

それぞれの場所で 命を守る訓練や体験

8時の防災行政無線の放送後、一斉に訓練が始まった。今回は、前日から大雨が降り続く中で、さらに南海トラフ巨大地震が発生するという「複合災害」を想定して実施した。

総合公園では、車両等が土砂災害に巻き込まれた想定で、消防や警察、自衛隊、医療チーム等が連携して救助訓練を行った。各隊員は、現場の状況を確認し、声を掛け合いながら救助に当たった。

中央公民館では、防災に関する体験・展示コーナーを設け、訪れた人は災害時に役立つ資機材の使い方を学んだほか、降雨や土石流の疑似体験などを通して、災害の恐ろしさを体感した。

避難者対応を見据えて

避難所開設・運営訓練の会場となった南吉井小学校では、各地区の自主防災組織を中心に、住民主体でTENTの設営や避難者の受付などを行った。今回の訓練では、これまで紙で行っていた避難者情報登録のデジタル化や、外国人避難者と意思疎通を図るための同時翻訳機の導入など、新たな技術を取り入れて実践した。

さらに、高齢者や障がい者等の要支援者は、事前に作成した個別避難計画に基づき、民生委員・児童委員が付き添って避難。また、ウェルケア重信では、福祉避難所を開設し、要支援者を福祉車両で移送するなど避難の流れを確認した。

訓練の課題を未来の備えに

訓練を通して、各機関が災害時の対応を実践し、連携することの重要性を再確認した。災害は、いつ起こるか分からない。今回の訓練で見た課題や気付きを、いざというときに命を守るための備えに繋げていく。